
所 属 : 国際学部

職・氏名 : 准教授 高久 賢也

U R L : <http://intl.hiroshima-cu.ac.jp/modules/intl/professor/takaku.html>

研究キーワード : 国際金融論、国際マクロ経済学

■研究テーマ

私の研究テーマは「国際資本移動とマクロ経済政策」です。近年、国際的な資本移動の急速なグローバル化に伴い、新興国や途上国への急激な資本の流入および流出が、そうした国々の景気変動に大きな影響を及ぼしており、通貨危機や金融危機の原因ともなってきました。また、近年の世界金融危機以降は、先進国（特にアメリカ）の金融政策がそうした国々の資本の流入や流出に大きな影響を及ぼしています。そうした状況下において、新興国や途上国における適切なマクロ経済政策のあり方を考えることは、それらの国々の成長や発展にとって極めて重要であることは明らかですが、近年では、中国のような新興国の景気の動向が世界経済全体に影響を及ぼすようになってきました。従って、新興国・途上国が適切なマクロ経済政策を行うことは（日本を含めた）先進国にとっても重要であると言えます。そのような認識から、私は、マクロ経済学の分野において、近年新しい政策分析ツールの一つとなっている確率的動学一般均衡（DSGE）モデルを用いて、新興国や途上国のような小国開放経済における望ましいマクロ経済政策（金融政策、財政政策、為替政策、および資本規制）のあり方について理論的な研究を行ってきました。

■主な著書、発表論文

【著書（分担執筆）】

1. 藤田誠一・松林洋一・北野重人（編著）『グローバル・マネーフローの実証分析：金融危機後の新たな課題』 ミネルヴァ書房 2014年4月（第8章「近年の新興市場国における国際資本移動と金融政策－小国開放経済のDSGEモデルによる分析－」（北野重人氏との共著）を担当）

【論文】

1. 「小国開放経済における為替レート政策の厚生分析」 『経済科学』 58巻4号, pp.53-69, 2011年3月
2. 「小国開放経済の外的ショックと金融政策：ニューケインジアンモデルによる分析」 『国民経済雑誌』 205巻3号, pp.57-75, 2012年3月（北野重人氏との共著）
3. “An Optimal Government Spending Reversal Rule in a Small Open Economy” *International Review of Economics & Finance*, Vol. 27, pp.374 - 382, June 2013 (with Shigeto Kitano)
4. “Monetary Policy, Incomplete Asset Markets, and Welfare in a Small Open Economy” *Economics Bulletin*, Vol.35, No.1, pp.112-121, March 2015 (with Shigeto Kitano)
5. “External Debt and Taylor Rules in a Small Open Economy” *Pacific Economic Review*, Vol.21, pp. 541-559, December 2016 (with Shigeto Kitano)
6. “Capital Controls and Financial Frictions in a Small Open Economy” *Open Economies Review*, forthcoming (with Shigeto Kitano)

■想定される連携先

公的研究機関、教育機関